



# 被災地生協仲間づくり支援の 成果と現地活動レポート

## 日本生協連 会員支援本部 宅配事業支援部

東日本大震災による津波や原発事故により、宅配利用組合員の大幅減に直面した岩手・宮城・福島が生協。日本生協連では全国の生協に仲間づくり支援への協力を呼びかけ、6月から8月にかけて、全国から多くの仲間たちがサンネット事業連合会員3生協とパルシステム福島で、その支援に当たった。震災直後の緊急支援、CO・OP共済の「お見舞い活動」に続く、全国の生協が連帯した活動について、取り組みの経緯と成果、現地活動レポートをお伝える。

## 1. 「東日本大震災・生協仲間づくり」 全国の生協への支援要請について

コープ東北サンネット事業連合（以下、サンネット）の宅配事業は、東日本大震災によって関連施設やシステムに甚大な被害を受け、以降4週間にわたり事業を停止せざるを得ませんでした。4月4日から事業は再開されたものの、津波被害や原発事故により、3生協（いわて、みやぎ、ふくしま）の宅配利用組合員は約2万人減少する見通しが出されました。また、パルシステムグループ生協のパルシステム福島でも、このままでは宅配利用者が2割減となる見通しが出されました。

このような利用者の大幅減は、事業再建を目指している被災地生協にとって極めて憂慮すべき事態です。そのためサンネットでは、6月6日～8月5日の9週間、緊急の「組合員拡大キャンペーン」に取り組むことになりました。日本生協連では5月24日付で、この活動への支援の呼びかけ（資料1）を全国の会員生協に発信させていただきました。

## 被災地生協の「仲間づくり活動」への支援要請内容（抜粋）

### 1. 対象生協

いわて生活協同組合  
みやぎ生活協同組合  
生活協同組合コープふくしま  
パルシステム福島

### 2. 支援期間

2011年6月6日(月)～8月5日(金)の9週間

全期間を通して毎営業日100名の派遣者を募集します。

※一人の方が9週間活動を継続できる方を最優先で派遣をお願いします。9週間連続での活動が無理な場合は、6月6日(月)～7月1日(金)の1ヶ月、7月4日(月)～8月5日(金)の1ヶ月の各期間で派遣をお願いします。

### 3. 支援費用負担

- (1) 宿泊・朝・昼・夕食費用と宿泊地から勤務地までの交通費等、現地までの往復交通費は日本生協連の負担とします。なお、8週以上の長期支援派遣者は、4週に1度の帰宅往復費用について日本生協連の負担とします。支援活動中の「保険」は日本生協連でかけさせていただきます。(日本生協連との清算方法は後日ご連絡します)
- (2) 但し、派遣者の給与や出張日当等は、派遣元会員生協で負担をお願いします。
- (3) 支援者の勤務は支援先の会員生協の就業に準じ、勤務時間や休日の差異清算は帰任後各会員でお願いします。

### 4. 宿泊施設

宿泊はホテル又はウイークリーマンション等を手配中です。後日自炊等可能かどうかとも連絡させていただきます。

### 5. 参考（拡大支援の主な取り組み内容）

- ① 仮設住宅入居被災者への訪問活動
- ② 大、小規模避難所への訪問活動
- ③ 地図システムを活用した個人組合員宅訪問
- ④ 地図システムを活用した引越し組合員宅訪問
- ⑤ 自前現場アポイントの獲得と対応
- ⑥ 配送担当者獲得の現場アポイント対応
- ⑦ 共同購入休眠組合員宅再利用の再利用の訪問
- ⑧ 個人宅ローラー訪問

- ⑨ 生協店舗でのアポイント獲得等の店頭活動
- ⑩ 配送担当者との地域ペア訪問
- ⑪ 職場班結成のための訪問

### 派遣支援事務局（お申込・お問合せ先）

日本生活協同組合連合会 会員支援本部 宅配事業支援部  
平賀部長、松居、三國  
TEL 03-5778-8130

## 2. サンネット支援生協・職員と成果

サンネットの「仲間づくりキャンペーン」は、6月6日～8月5日までの2カ月間行なわれ、全国から総勢95人がその支援に入りました。支援メンバーは、まず仙台市内で開催された合同のオリエンテーション（第1陣は6月6日、第2陣は7月5日開催）に参加。ここで被災地生協の震災後の取り組みや、各生協の仲間づくり手法、おすすめ商品について学び、翌日から3生協（いわて・みやぎ・ふくしま）の各支部に所属され、長い人は9週間にわたりホテルに宿泊しながら仲間づくりに取り組みました。

第1陣（6月6日～7月1日）には42人が参加し、宅配利用加入者は3生協合計で639人（内訳：いわて190人、みやぎ342人、ふくしま107人）となりました（資料2）。しかも加入者数は第1週76人、第2週163人、第3週190人、そして最終第4週には210人と、週を追うごとに向上しています。個人別の加入実績トップ3は、コープとうきょう・毛塚<sup>けづか かずひと</sup>和仁さん54人（支援先生協・支部名：みやぎ生協・東支部）、さいたまコープ・根元<sup>ねもと たかひろ</sup>貴広さん51人（同・石巻支部）、コープかごしま・濱田<sup>はまた まこと</sup>陸さんの43人（いわて生協・釜石支部）でした。コープふくしま派遣メンバーでは、ララコープ・濱口<sup>はまぐち けんじ</sup>賢二さんの22人（ふくしま北支部）が最高実績でした。

7月4日からの第2陣には63人（第1陣からの通し参加者を含む）が参加しました。支援メンバーによる宅配利用登録人数は、3生協合計で1,434人（内訳：いわて479人、みやぎ669人、ふくしま286人）となりました。個人別の加入実績トップ3は、コープとうきょう・毛塚和仁さんが81人（みやぎ生協・東支部）で第1陣に続きトップに。続いて、さいたまコープ・愛甲<sup>あいこうひで お</sup>英雄さん78人（みやぎ生

協・石巻支部)、さいたまコープ・鈴木一弘<sup>すずき かずひろ</sup>さん68人(みやぎ生協・石巻支部)でした。なお、いわて生協派遣メンバーでは、生協共立社・菅原<sup>すがわら みつはる</sup>光春さんの64人(釜石支部)が、同じくコープふくしま派遣メンバーでは、生協共立社・手塚<sup>てづか すなお</sup>直さんの36人(相双支部)が最高実績でした。

2カ月間の累計加入実績は2,073人(内訳:いわて669人、みやぎ1,011人、ふくしま393人)と大きな成果を挙げることができました。

## 資料2 サンネット仲間づくり支援活動参加者

No	支援元生協名	名前	支援先生協名	支部名	支援期間
1	コープさっぽろ	広瀬徳彦	みやぎ生協	南支部	6/6~7/1
2	コープさっぽろ	田中 篤	みやぎ生協	南支部	6/6~7/1
3	コープさっぽろ	中村龍乙	みやぎ生協	南支部	6/6~7/1
4	コープさっぽろ	渡辺健二	みやぎ生協	南支部	6/6~7/1
5	生協共立社	齋藤千佳子	みやぎ生協	気仙沼支部	6/13~8/5
6	生協共立社	庄司理紗	みやぎ生協	気仙沼支部	6/13~8/5
7	生協共立社	富樫 亘	コープふくしま	郡山支部	6/13~8/5
8	生協共立社	片桐洋平	いわて生協	宮古支部	6/13~8/5
9	生協共立社	高橋則文	いわて生協	釜石支部	6/20~8/5
10	生協共立社	菅原光春	いわて生協	釜石支部	6/20~8/5
11	生協共立社	高橋政行	コープふくしま	相双支部	6/27~8/5
12	生協共立社	手塚 直	コープふくしま	相双支部	6/27~8/5
13	コープとうきょう	毛塚和仁	みやぎ生協	東支部	6/6~8/5
14	コープとうきょう	福住 徹	みやぎ生協	東支部	6/6~8/5
15	さいたまコープ	根元貴広	みやぎ生協	石巻支部	6/6~7/1
16	さいたまコープ	橋本 晃	みやぎ生協	石巻支部	6/6~7/1
17	さいたまコープ	愛甲英雄	みやぎ生協	石巻支部	7/4~8/5
18	さいたまコープ	鈴木一弘	みやぎ生協	石巻支部	7/4~8/5
19	ちばコープ	川村英正	みやぎ生協	南支部	6/6~7/1
20	ちばコープ	永瀬勇介	みやぎ生協	南支部	6/6~7/1
21	ちばコープ	田邊 衛	みやぎ生協	東支部	7/4~8/5
22	ちばコープ	大川弘樹	みやぎ生協	東支部	7/4~8/5
23	いばらきコープ	米川浩之	いわて生協	釜石支部	6/6~7/1
24	いばらきコープ	辻澤匡紫	いわて生協	宮古支部	7/4~8/5
25	とちぎコープ	田中 広	いわて生協	花北支部	6/6~8/5
26	コープぐんま	井田 稔	いわて生協	宮古支部	6/6~7/1
27	コープぐんま	田中寛明	いわて生協	宮古支部	7/4~8/5
28	コープながの	代田 登	みやぎ生協	東支部	6/6~7/1
29	コープながの	中澤 潔	いわて生協	県南支部	7/4~8/5
30	コープにいがた	坂内時雄	いわて生協	久慈支部	6/6~7/1
31	コープにいがた	近藤浩之	いわて生協	花北支部	7/4~8/5
32	コープネット事業連合	山本 忠	いわて生協	久慈支部	7/4~8/5
33	コープかながわ	野口拓哉	いわて生協	けせん支部	6/6~7/1

No	支援元生協名	名前	支援先生協名	支部名	支援期間
34	ユーコープ事業連合	真柄敬太	いわて生協	けせん支部	6/6~7/1
35	ユーコープ事業連合	山田一広	いわて生協	けせん支部	7/4~8/5
36	ユーコープ事業連合	竜崎 浩	いわて生協	けせん支部	7/4~8/5
37	ユーコープ事業連合	山下 聡	いわて生協	けせん支部	7/4~8/5
38	ユーコープ事業連合	上田四郎	いわて生協	けせん支部	7/4~8/5
39	ユーコープ事業連合	杉保文隆	みやぎ生協	柴田支部	7/4~8/5
40	ユーコープ事業連合	藤本格意	みやぎ生協	柴田支部	7/4~8/5
41	コープあいち	大口忠史	いわて生協	盛岡東支部	7/4~8/5
42	大阪バルコープ	村野政光	みやぎ生協	東支部	7/4~8/5
43	大阪バルコープ	松崎真也	みやぎ生協	石巻支部	7/4~8/5
44	大阪いずみ市民生協	河合耕太郎	いわて生協	盛岡西支部	7/4~8/5
45	大阪いずみ市民生協	楠本宗大	いわて生協	盛岡南支部	7/4~8/5
46	大阪いずみ市民生協	新海雅彦	みやぎ生協	南支部	7/4~8/5
47	大阪いずみ市民生協	竹田 貢	みやぎ生協	南支部	7/4~8/5
48	大阪いずみ市民生協	吉田益男	みやぎ生協	南支部	7/4~8/5
49	大阪いずみ市民生協	小井一央	みやぎ生協	南支部	7/4~8/5
50	大阪いずみ市民生協	辻康 浩	みやぎ生協	南支部	7/4~8/5
51	大阪いずみ市民生協	伊田慎吾	コープふくしま	郡山支部	7/4~8/5
52	大阪いずみ市民生協	富江泰三	コープふくしま	郡山支部	7/4~8/5
53	大阪いずみ市民生協	鎌田裕彦	コープふくしま	郡山支部	7/4~8/5
54	コープしが	赤澤 純	みやぎ生協	柴田支部	7/4~8/5
55	コープしが	三田村弦郎	みやぎ生協	柴田支部	7/4~8/5
56	コープいしかわ	南恵 治	コープふくしま	いわき支部	7/4~8/5
57	コープいしかわ	竹内伸悟	コープふくしま	いわき支部	7/4~7/19
58	コープいしかわ	金井克憲	コープふくしま	いわき支部	7/21~8/5
59	おかやまコープ	竹内征司	みやぎ生協	柴田支部	6/27~7/1
60	おかやまコープ	仲石健吾	みやぎ生協	柴田支部	6/27~7/1
61	おかやまコープ	大野達也	みやぎ生協	柴田支部	7/4~7/15
62	おかやまコープ	江口典男	みやぎ生協	柴田支部	7/4~7/15
63	コープやまぐち	佐々木喜和	みやぎ生協	南支部	6/27~7/1
64	コープやまぐち	佐伯翔也	みやぎ生協	南支部	6/27~7/1
65	コープやまぐち	吉村 明	みやぎ生協	南支部	6/27~7/1
66	コープやまぐち	重村恒治	みやぎ生協	南支部	6/27~7/1
67	鳥取県生協	村尾 肇	みやぎ生協	南支部	6/6~6/10
68	鳥取県生協	山田昌浩	みやぎ生協	南支部	6/6~6/10
69	コープしまね	藤原靖之	みやぎ生協	柴田支部	7/4~8/5
70	コープかがわ	岡崎正和	みやぎ生協	迫支部	7/25~7/29
71	コープかがわ	岩佐重治	みやぎ生協	迫支部	7/25~7/29
72	コープかがわ	石橋恭一	みやぎ生協	迫支部	8/1~8/5
73	コープかがわ	斉藤哲也	みやぎ生協	迫支部	8/1~8/5
74	エフコープ	村上英喜	コープふくしま	郡山支部	6/6~7/1
75	エフコープ	石丸健太郎	コープふくしま	郡山支部	6/6~7/1
76	エフコープ	小永吉徹	コープふくしま	郡山支部	6/6~7/1
77	ララコープ	濱口賢二	コープふくしま	ふくしま北	6/6~7/1
78	ララコープ	福田和幸	コープふくしま	ふくしま北	6/6~7/1

No	支援元生協名	名前	支援先生協名	支部名	支援期間
79	エフコープ	牛島祐幸	コープふくしま	郡山支部	7/4～8/5
80	エフコープ	森 英子	コープふくしま	郡山支部	7/4～8/5
81	エフコープ	水本啓治	コープふくしま	ふくしま北	7/4～8/5
82	エフコープ	市原宏則	コープふくしま	ふくしま北	7/4～8/5
83	ララコープ	林田俊哉	コープふくしま	相双支部	7/4～8/5
84	ララコープ	村瀬 剛	コープふくしま	相双支部	7/4～8/5
85	コープおおいた	波津久 周	コープふくしま	ふくしま南	6/6～7/1
86	コープおおいた	田中徹也	コープふくしま	ふくしま南	7/4～8/5
87	生協水光社	寒川正博	コープふくしま	ふくしま南	6/6～7/1
88	生協水光社	網中和明	コープふくしま	ふくしま南	7/4～8/5
89	コープかごしま	稲留四郎	いわて生協	釜石支部	6/6～7/1
90	コープかごしま	濱田 睦	いわて生協	釜石支部	6/6～7/1
91	コープかごしま	武原光秀	いわて生協	釜石支部	7/4～8/5
92	コープかごしま	廣津臣一	いわて生協	釜石支部	7/4～7/22
93	コープかごしま	重田一樹	いわて生協	釜石支部	7/25～8/5
94	コープおきなわ	幸地伸修	コープふくしま	いわき支部	7/4～8/5
95	コープおきなわ	浦崎康志	コープふくしま	いわき支部	7/4～8/5

### 3. パルシステム福島支援生協・職員と成果

また、7月3日から29日まで、パルシステムグループ生協によるパルシステム福島・郡山拡大事務所への仲間づくり支援も行なわれました（資料3）。こちらは1週交代による仲間づくり支援行動で、支援者は4週間の合計で92人（内訳：パルシステム東京16人、神奈川11人、千葉8人、埼玉7人、茨城4人、山梨4人、群馬4人、株式会社パルライン4人<sup>※1</sup>、株式会社未来<sup>※2</sup>8人、連合会18人。また、新潟総合生協から8人）となりました。1週当たり22人～25人が支援に当たり、4週間累計で458人の宅配利用登録を得ることができました。これにパルシステム福島の担当者による加入299を加えると、計画の625件に対して757件（達成率121.1%）と、大幅に超過して終了することができました。

※1 パルシステムグループの物流および個人別セット業務などを担っている会社です。

※2 パルシステム茨城の配送業務を担う会社です。

#### 資料3 パルシステム福島仲間づくり支援活動参加者

##### ●第1陣 7月3日（日）～7月8日（金）

No.	会員生協・子会社	氏名	所属	現職務
1	パルシステム東京	後呂康介	港	営業リーダー
2	パルシステム東京	寺本康寛	練馬	営業リーダー
3	パルシステム東京	小堺光浩	第1事業部	営業トレーナー
4	パルシステム東京	三橋丈晴	八王子	供給リーダー

5	バルシステム神奈川	片山翔太	横須賀	営業担当
6	バルシステム神奈川	岩井太造	横浜中	供給リーダー
7	バルシステム神奈川	小林 敏	宮前	営業リーダー
8	バルシステム千葉	矢口伸弘	事業部共済	スタッフ
9	バルシステム千葉	青木邦善	稲毛	供給リーダー
10	バルシステム埼玉	斎藤一步	三芳	供給担当
11	バルシステム埼玉	堀部高次	川越	営業担当
12	バルシステム茨城	鎌田紀章	小山拡大	拡大担当
13	バルシステム山梨	渡辺洋一	富士五湖	仲間づくりリーダー
14	バルシステム群馬	村上哲彦	高崎拡大	拡大所長
15	(株)バルライン	林 昭郎	管理本部	副係長
16	(株)未来	立石幸二	本社	係長
17	(株)未来	田代俊一	いわき	副所長
18	新潟総合生協	小林清人	東C	仲間づくり担当
19	新潟総合生協	逢坂寛人	西C	仲間づくり担当チーフ
20	新潟総合生協	小山 茂	上越C	仲間づくり担当推進役
21	連合会・運営本部	談麗青	運営室	室長
22	連合会・事業部	鳥井嘉人	運営支援課	副主任
23	連合会・営業部	井口淳夫	営業企画推進課	副主任

●第2陣 7月10日(日)~7月15日(金)

No.	会員生協・子会社	氏名	所属	現職務
1	バルシステム東京	石田君枝	第1事業部	営業トレーナー
2	バルシステム東京	黒崎眞琴	板橋	営業リーダー
3	バルシステム東京	栗原 誠	世田谷	営業担当
4	バルシステム東京	島津謹一郎	立川	営業リーダー
5	バルシステム神奈川	田中秀樹	相模	供給リーダー
6	バルシステム神奈川	中村聡宏	横浜中	営業担当
7	バルシステム神奈川	山田賢吾	横浜南	営業長
8	バルシステム千葉	岡田修一	習志野	営業副長
9	バルシステム千葉	椎名一樹	野田	営業担当
10	バルシステム埼玉	宮野陽介	蕨	営業担当
11	バルシステム埼玉	佐々江隆弘	白岡	供給担当
12	バルシステム茨城	石崎 武	日立拡大	拡大担当
13	バルシステム山梨	和田美香	甲府	仲間づくりリーダー
14	バルシステム群馬	中沢勝樹	東毛拡大	拡大所長
15	(株)バルライン	林 昭郎	管理本部	副係長
16	(株)未来	佐藤由紀子	日立	アシスト
17	新潟総合生協	丸山一幸	上越C	仲間づくり担当
18	新潟総合生協	山田和彦	中越C	仲間づくり担当
19	連合会・品質管理部	石川元寿	品管1課	副主任
20	連合会・企画本部	植田真仁	広報部	副主任
21	連合会・事業部	能登武史	業務支援課	主任
22	連合会・運営本部	細川泰子	環境推進室	一般

●第3陣 7月17日(日)～7月22日(金)

No.	会員生協・子会社	氏名	所属	現職務
1	パルシステム東京	青野さゆり	第1事業部	営業トレーナー
2	パルシステム東京	吉野真吾	江戸川	営業担当
3	パルシステム東京	土屋たみ江	第1事業部	営業トレーナー
4	パルシステム東京	平柳次弘	青梅	営業リーダー
5	パルシステム神奈川	鈴木悠太	相模	営業リーダー
6	パルシステム神奈川	中野大輔	横浜北	営業リーダー
7	パルシステム千葉	芦塚宏海	印西	営業リーダー
8	パルシステム千葉	下藺嘉宏	野田	供給リーダー
9	パルシステム茨城	金谷大輔	牛久拡大	拡大担当
10	パルシステム埼玉	谷口裕紀	草加	供給担当
11	パルシステム山梨	晴山秀樹	事業活動部	パルシステム事業課リーダー
12	パルシステム群馬	小林秀行	東毛拡大	拡大副所長
13	(株)パルライン	中島史祥	生活物流本部	課長
14	(株)未来	立石幸二	本社	係長
15	(株)未来	小澤貴志	本社	係長
16	新潟総合生協	上野喜寛	東C	仲間づくり担当
17	新潟総合生協	逢坂寛人	西C	仲間づくり担当チーフ
18	連合会・商品企画部	枝廣哲也	個人対応推進課	担当
19	連合会・人事部	横山玄多	人事課	担当
20	連合会・運営本部	浜田豊之	環境推進室	次席
21	連合会・事業部	渡部信之	業務支援課	主任

●第4陣 7月24日(日)～7月29日(金)

No.	会員生協・子会社	氏名	所属	現職務
1	パルシステム東京	塩家吹雪	江東	営業リーダー
2	パルシステム東京	大月和之	池尻	営業リーダー
3	パルシステム東京	辻井盛雅	狛江	営業担当
4	パルシステム東京	江田鉄雄	多摩	営業リーダー
5	パルシステム神奈川	赤塚賢司	藤沢	供給長
6	パルシステム神奈川	井上雅文	事業部	第1課長
7	パルシステム神奈川	鈴木 誠	鶴見	営業長
8	パルシステム千葉	藤平敏司	習志野	営業担当
9	パルシステム千葉	山田智明	市原	副センター長(供給)
10	パルシステム埼玉	渡辺泰子	事業部	営業トレーナー
11	パルシステム埼玉	中原美加	大宮	営業担当
12	パルシステム茨城	新田川 誠	小山拡大	拡大担当
13	パルシステム山梨	古屋みずき	いちのみや	仲間づくり担当
14	パルシステム群馬	坂庭欣一	渋川拡大	拡大所長
15	(株)パルライン	中島史祥	生活物流本部	課長
16	(株)未来	面川哲哉	いわき	主任
17	新潟総合生協	清水正徳	中越C	仲間づくり担当
18	連合会・商品企画部	北根方弘	商品企画課	一般
19	連合会・商品企画部	鈴木修介	商品企画課	一般
20	連合会・品質管理部	鈴木章文	品管1課	一般
21	連合会・情報システム部	堀 進一	システム管理課	主任
22	連合会・事業部	平澤 崇	運営支援課	副主任
23	連合会・営業部	原田郁美	営業支援課	一般
24	連合会・運営本部	大塚晴子	環境企画推進	一般

資料提供：パルシステム連合会(抜粋)



## 4. 今回の「仲間づくり支援」活動を振り返って

サンネット3生協とパルシステム福島での仲間づくり支援では、支援生協によって、その手法もそれぞれの特徴が見られました。

例えば、「現場アポ」を中心とした仲間づくりや、住宅地図によるローラー訪問、配達職員と連携した仲間づくりなどの違いが見られました。それぞれの生協の仲間づくり行動や地域性から、これらの違いが出てきたものと思われます。このため、支援生協の職員と支援先センター職員が行動手法をめぐって論議を行なったという話も聞きました。その一方で、支援者が講師となつての「戸別トーク学習会」や「戸別行動に同行しての拡大手法の学び合い」などを行なったという報告もありました。

被災地区を戸別訪問する際、「訪問先では、家族構成や特に小さなお子さんに、『お母さん・お父さんは?』との問いかけは厳禁としていた」という話を聞きました。しかし、注意していたつもりでも親御さんが亡くなったお子さんに聞いてしまった事例もあったそうです。その方は大変後悔していました。また、多くの支援者が口にされていたのが、「ドアを開けてくれる方が多い」ということでした。特に被害の大きい沿岸部ではドアを開けて、話を聞いてくれる方が多かったそうです。

日本生協連・宅配事業支援部では、あらためて、支援者の皆さんの真剣で真摯な支援行動に心から感謝を申し上げたいと思います。沿岸地区に配属された支援者の中には、近隣に宿泊できる所がなく、レンタカーで片道2時間近くかけて通勤していただいた方もいました。また中には、土日にボランティアをされた方もいたと聞きました。支援者にお書きいただいた支援活動の振り返りからは、ほとんどの方が、「今回の経験が大きな財産になった」「生協で働く意義、価値のようなものを自覚した」という感想をお持ちになったことがうかがえました。

生協にとって仲間づくりは地域との絆を築く大切な活動です。今回の支援活動は大震災を契機として企画されましたが、全国の仲間づくり職員が他生協で活動と交流を図れたことは、今後、支援者を送り出した生協にとっても、仲間づくりを高めていくことにつながるものと確信しています。

## 5. 被災地で仲間づくりに奮闘する 支援メンバーたち

### 仲間づくり支援活動・現地レポート①

#### いわて生協・宮古支部（支援生協：生協共立社）

### 地域の利用者が半減する中から 始まった仲間づくり

7月22日に取材した、いわて生協・宮古支部（宮古市<sup>たくさり</sup>田鎖）は、三陸沿岸に位置する宮古市をはじめ、その北の岩泉町、田野畑村、南の山田町を事業エリアとしている。いずれも東日本大震災では津波による大きな被害を受けた地域だ。

「震災前、共同購入・個配の利用者は、登録で5,700～5,800人、実利用では5,200～5,300人いました。しかし、震災後初めてとなる、4月第2週の利用者は約2,600人と、半減していました」と宮古支部長の山口<sup>やまぐち たかし</sup>孝司さんは説明する。

最寄りの店舗が流され、大勢の人たちが買い物に不便している中、食料や雑貨など生活に不可欠な商品を届ける共同購入（宅配）事業を立て直し、多くの組合員に利用してもらうことは、地域の生活を守る生協の役割である。そこで、地域の人たちに生協をお知らせし、少しでも暮らしのお役立ちと、被災地生協の一刻も早い事業の立て直しのために、全国の生協職員が「仲間づくり支援」活動に参加した。



いわて生協  
宮古支部長  
山口孝司さん

### 配慮と成果の両立の難しさを 痛感しながら支援

6月半ばから、ここ宮古支部の仲間づくりタスクの一員として活動していたのが、生協共立社（山形県）の片桐<sup>かたぎり ようへい</sup>洋平さんだ。関東の生協からやってきた他の2人と共に、宮古支部に応援に駆け付けた。

「イントネーションが違うので、『あ、よそから来たんだな』と分かってしまいます。でも、ここでは『いわて生協です』とか、あるいは『宮古のDORAの生協です』と言えば、誰でも『ああ、あの生協ね』と分かってくれますから、話は進めやすいですね」。DORA



生協共立社  
片桐洋平さん

とは、いわて生協の沿岸部の旗艦店、宮古ショッピングセンター「マリンコープDORA」のことだ。

「また、共立社では思いっきり笑顔でいけば、結構、許されるようなところがあったのですが、ここではそうはいきません。震災については思い出したくない方もいらっしゃるので、あまり触れないようにしています」(片桐さん)

週に8件の「仲間」獲得という目標もある。山口支部長も被災地での仲間づくりの難しさについて、

「利用しましょう、利用しましょうと、ガンガン勧めるのではなく、まずはお話を聴く。じっくり聴いた上で、生協の共同購入や個配がお役立ちできるようであれば、ぜひ、この機会に利用していただきたいと勧める。(配慮と実績を) どう両立させるかは、結構、支援の方は苦労されているところだと思います」と話してくれた。

また支援者にとって、人と接する難しさ以前に、どこに人が住んでいて「仲間づくり」のチャンスがあるのか、という土地勘が全くないというハンディもある。そのため支援者は支部職員とペアで回ることも多い。実際、片桐さんも当初はそうしていたが、途中からは1人で活動できるようになったという。

## お見舞い品とチラシ類一式で 宅配の便利さを伝える

片桐さんの車に同乗させていただいた。目的地は山田町の高台にある2棟のアパートだ。A棟は5階建てで全部で30戸。B棟は4階建てで16戸。自転車置き場のすぐ手前に駐車すると、片桐さんは軽ワゴンの後方を開けて、プラスチックボックスを1つ取り出した。「お見舞い」のための商品や「仲間づくり」を進めるためのチラシ類一式が入っている。

最初にA棟に向かい、5階まで一気に上がった。まずはすでに組合員になっている人の家を訪ね、生協に抵抗はないか、どんな人たちが住んでいるのかなど、アパートの雰囲気を知る。ざっと情報収集した後、片桐さんはすぐに向かい側の家のインターホンを押し訪問活動を開始した。応答があると「こんにちは、いわて生協です」とあいさつし、「一軒一軒お見舞い活動をしています」と切り出す(写真1)。



写真1 アパートで生協について説明中の片桐さん。

いわて生協では、まず「お見舞い活動」をしていると告げ、用意したカップ麺などの詰め合わせを手渡し手順となっていた。手渡ししながら、「生協を利用していますか」と聞く。すでに宮古のDORAの利用者で、「出掛けるのもリフレッシュになるので、(DORAまでは遠いけれども) 困っていない」と言う方もいる。その際には、重いものをお届けできることや、通常は240円の配達料が山田町では特別に100円になるという利点をあげて説明していた。留守宅は多いが、3軒に1軒ほどの割合で話ができた。

B棟に移り、同じように最上階まで登って1軒1軒の訪問を開始。手応えはA棟と同様で、いわて生協の認知度は高いが、個配を始めるまでには至らない。同じようなやり取りがずっと続くのかと思えたとき、同じ棟の知人から生協を紹介されたという人が現れ、加入いただけただけ。この時点で訪問軒数は48軒で、実際に顔を合わせることもできたのは15軒と、約3分の1だった。

その後、アパート周辺のお宅を訪問することにした。1軒目のお宅には家を流された人が身を寄せていて、最近、仮設住宅への入居が決まり、新しい生活を始めるにあたって個配を始めたかったという。その女性は、「実家の父は味にうるさいんですが、生協の野菜や魚は新鮮でおいしいと言うんです」と、生協の商品の品質には信頼を置いていて、片桐さんの説明に「アイスも持ってきてくれるんですか」とうれしそうだった。これで2件の加入獲得。片桐さんの顔に<sup>あんど</sup>安堵が広がった。

アパートから車で約5分の山田南小学校は、震災後、避難所になっていたが、その後に仮設住宅が建設された。片桐さんは、以前にアプローチしたある仮設住宅の玄関先で声を掛けた(写真2)。女性が出てきて、すぐに用件を理解し、片桐さんが持ってきたチラシを見始めた。「日用雑貨は買いたい。でも、欲しい品物がなかなかなくて……」とチラシを見ながら言う。「これは一部で、もっと別の物もたくさんあるんですよ」。片桐さんは車にとって返し、チラシ、カタログ類を一式持ってきた。パラパラ見ながら女性は満足したようで、加入を決心した。「共済にも入りたい」ということで片桐さんはその紹介を約束し、この日の加入は3件になった。



写真2 仮設住宅を回る片桐さん。



## 仮設住宅での仲間づくりが 今後の課題

宮古支部に戻り、山口支部長に仲間づくりの状況についてお聞きすると、

「数は上がっています。基本的なやり方は間違っていないと思います。なんだかんだと言っても、利用していただいて、初めてお役立ちできるわけですからね。使ってもらわなければ商品の良さは分かりません。4月第2週時点で2,600人だった利用者は、片桐さんたちの応援もあって急速に回復し、7月末には5,113人になっています」と話してくれた。これは週当たり200人が回復しているペースだ。

震災前利用人数の5,300人には及ばないものの、宮古支部の1人当たりの週利用高は110%を超え、単月の供給高ではすでに前年を上回っている。また、遅れていた仮設住宅への入居が急速に進んでいる。今後は仮設住宅での「仲間づくり」による地域の人たちへのお役立ちが重要な役割を果たすことになる。

(文・写真 山本明文)

### 仲間づくり支援活動・現地レポート②

#### みやぎ生協・南支部（支援生協：大阪いずみ市民生協）

## 津波被災地域を担当する 南支部での仲間づくり

7月19日に取材させていただいた、みやぎ生協・南支部（名取市高館）の担当エリアには、仙台市若林区や名取市の閑上、岩沼、<sup>ゆりあげ</sup>巨理<sup>わたり</sup>など、津波で大きな被害を受けた地域が含まれている。震災前の利用者数は週当たり2万5,600人だったが、震災後初めての商品カタログ（写真なし197品目）と注文書が配布された3月28日の週の利用者は1万3,000人と半減。しかし、その後利用者は少しずつ増え、通常チラシに戻った5月の連休明けの利用者は2万4,500人（震災前の95.7%）にまで回復した。

6月6日からは、全国からの仲間づくり支援（拡大キャンペーン）もあって、先週（7/8-14）の実績では2万5,300人まで回復。しか

し震災前と比べると、まだ300人ほど少ない状況だという。取材した週は、この差をどう埋めるかが課題になっていた。南支部統括支部長<sup>かすが ふみあき</sup>の春日 文明さんは、

「南支部では、震災前の利用者数まで回復してはじめて、われわれにとっての復興だという認識でいます」と話した。



南支部 統括支部長  
春日文明さん

## 南支部統括支部長 春日文明さんからひとこと

6月に第1陣としてコープさっぽろ、ちばコープ、鳥取県生協、コープやまぐちの皆さんに、7月5日から第2陣として大阪いずみ市民生協さんに入っていただきました。土地勘もない所に来て、みやぎ生協の営業担当者と同じように予算を持ち、休みの日にも情報を取ったりするなど、一生懸命支援をしていただいています。皆さんの支援は確実に利用人数に現れています。例えば2人で1日300軒も訪問し、1カ月間で80人~100人の実績をつくってくれたグループもありました。このことには、感謝してもし切れません。

今期の仲間づくりの最大のポイントは「お役立ち拡大」です。被災された沿岸部の皆さんはもとより、宮城県に暮らす多くの人々の生活に、われわれのサービスが少しでもお役に立てるようにとの思いで「拡大キャンペーン」に取り組んでいます。

「組合員のためのお役立ち」は普段からよく言っていますが、今回の「お役立ち」は少し違います。組合員の皆さんに笑顔になってもらいたい、元気になってもらいたい。そして、生協を利用して、1日でも早く普段の生活を取り戻していただきたい。その願いを込めての「お役立ち」なのです。そのため、沿岸部の被災地や仮設住宅では、オープニングトークも「みやぎ生協ですが、何かお困りのことはありませんか」と、いつもと違う形にしています。

支部のテーマは、「利用者を震災前の数に戻し、支部の体力を回復する」こと。これが組合員さんからの信頼のバロメーターだと思っています。

## みやぎ生協と大阪いずみ市民生協による 20人の仲間づくりチーム

南支部には、第1陣として6月6日からコープさっぽろ、ちばコープ、鳥取県生協、コープやまぐちの仲間たち12人が、7月5日からは第2陣として大阪いずみ市民生協（3生協計10人、うち南支部に5人）が入り、仲間づくりに取り組んでいる。取材時には、みや



ぎ生協の仲間づくり担当15人と大阪いずみ市民生協の5人が4つのチームに分かれて、それぞれ予算（目標）を持って仲間づくり活動の取り組みを進めていた。

「予算は、南支部の担当者合計で1週間に220人。1人当たりでは13～15人です。支援生協の皆さんには1日当たり2人で、週10人をお願いしています」（春日支部長）。

実際の活動では、大阪いずみ市民生協とみやぎ生協のスタッフがペアで行動することもあれば、大阪いずみ市民生協のスタッフは白地図を使って得意の「ローラー訪問」を行ない、みやぎ生協のスタッフは、慣れた「現場アポ活動」を中心に行動することもあるという。また、大阪いずみ市民生協のスタッフがみやぎ生協の配送担当者からの情報をもとに「現場アポ活動」を行なうなど、フレキシブルな態勢が取られている。

## 週1回の「グループ会」で、 加入実績と今後の行動を確認

拡大キャンペーンは金曜日から木曜日を1週間のサイクルとし、毎週木曜日の朝9時には1週間の振り返りと翌週の仲間づくり予算の確認と今後の計画を話し合うためにグループ会が開かれている。取材日には、急きょグループ会を開催していただいたが、南支部・営業担当課長の佐藤美果さんからは、

「今週は拡大キャンペーンの集大成の週です。あと2日間が勝負なので、（この日のグループ会の開催は）いいタイミングです。今週は、昨日までの2日間で90人、予算残りは162人です。Cグループはすでに予算達成していますがBグループは非常に厳しい見込みになっています。上期の実績が今年度の利用人数を左右するので、



南支部  
営業担当課長  
佐藤美果さん



7月19日に開かれたグループ会の様子。

来週までに持ち越すとかは考えず、今週中に何としてでも達成するんだという気持ちで頑張ってください」と、げきが飛んだ。

また佐藤さんは、大阪いずみ市民生協のスタッフから、「『近くに店があるから』というお断りにどう対処するかとまどっている」ということに触れ、夕方、あらためて切り返しのトークについて話し合いを行なうことが提案された。

## 1日約200件訪問のローラー作戦を取る 大阪いずみ市民生協・小井さん

グループ会終了後の9時半過ぎに、大阪いずみ市民生協・堺中央共同購入センター営業グループの小井一央おい かずちかさんの運転する車に乗って支部を出発。小井さんが担当するエリアは、仙台市若林区の上飯田いいた地区など、農家や商店、アパート、新しい住宅が入り交じる地域だ。彼は、そこを一軒一軒、ローラー訪問して回る。留守宅が多く、呼び鈴を押してもほとんど応答がないが、そのドアに頭を下げてから、次の家に向かう。

在宅されているお宅では、ホッとしたのもつかの間、「うちはいいから」「今忙しいから」と門前払いにされ、見本の商品カタログ「Week」を受け取ってもらえないことも多い。しかし、一方では、「みやぎ生協です」の声掛けにすぐドアを開けていただき、話を聞いてくれる人もいた。その際にはバラで使える冷凍食品の便利さ、野菜も魚も新鮮なこと、地産地消の商品など、まずは「Week」に掲載されているコープ商品の良さを伝えることから始めていた。

また、食事制限のある方には塩分控えめの商品があることや、一度登録するだけで毎週届く「利用登録」など、それぞれの事情に合



担当地区をローラー訪問する、大阪いずみ市民生協・小井さんの様子。





わせてお勧めを行なっていた。しかし、その場では強引に利用登録を勧めることはせず、「考えてみるから」と話す方には、「Week」と共同購入・個配のパフレットをお渡しし、「よければ明日おすすめの商品を持ってまた来ます。何時ごろだったらいらっしゃいますか」と翌日のアポを取っていた。

## 大阪いずみ市民生協 小井一央さんからひとこと

今日で支援活動は16日目ですが、他のメンバーとともに南支部近くのビジネスホテルで単身赴任の生活を送っています。宮城県には初めて来ました。ただし震災直後には、いわて生協に支援物資を届けています。3月16日トラックに米と軽油を積んで大阪を出発し、翌日の夜、いわて生協に支援物資を届けて、すぐ大阪へUターンしました。そうした体験もあり、日本生協連からの呼びかけで、大阪いずみ市民生協が岩手・宮城・福島 of 3 生協の仲間づくりを支援することが決まったとき、自らすすんで手を挙げました。

今回の支援では、被災地のかたがたと直接お話ができ、他の生協の取り組みを見て、自分の見聞を広げることもできると思いました。実際、大阪いずみとみやぎ生協ではシステムも働くスタイルも違うことに驚きました。例えば、みやぎ生協では1人の配送担当者が、班配達・個配達・なかよし個配の全部を担当しています。大阪いずみの場合は、それぞれ別の担当者が別のルートで商品をお届けするんです。また仲間づくりでは、みやぎ生協の場合、配送担当者と営業が連携して成果を挙げている（現場アポ）のに対し、ぼくらは地道に一軒一軒まわる営業スタイルを貫いています。

今回、みやぎ生協の配送システムの効率性に注目すると同時に、自分たちの方法にも良さがあることを確認することができました。大阪いずみ市民生協の将来は、ぼくらのような若い世代がいろいろ考えていかなければなりません。そういう意味でも今回の仲間づくり支援は貴重な体験になりました。

## 「店舗」と「共同購入・個配」の併用を どうおすすめするか

みやぎ生協は組織率が高いこともあり、「もう共同購入やってるよ!」という声が訪問先の多くから返ってきた。そのような組合員さん宅では、「ご利用いただいて、何か不都合なことはございませんか」と、声を掛けていた。この日も、そんなお声掛けから返品に関する要望へと話が広がり、30分以上玄関先で組合員さんの声に耳

を傾げる場面も。午前中汗だくになりながら訪問を重ねたが、宅配の利用登録はゼロ件だった。

「話を聞いてもらうまでが大変なんです。でも大阪で営業に回っても利用登録に結び付くのはごくわずか。こちらでも、そう簡単にいくとは思っていません。また土地勘もなければ、年配の方と話すと、方言で何を言っているのか分からないことがあります」と、小井さんは話す。それでも4件の利用登録を挙げているという。

「そのうち、お子さんのいるご家庭が3件ありました。生協の店舗を利用しておらず、近所の沖野店の話をしてもピンとこなくて、これは脈がありそうだと思います、お子さん向けの試供品などをお渡しして、いろいろ話をしていったらその場で利用登録を決めていただきました」。また、店舗を利用されている組合員が多いため、仲間づくりでは「店舗」と「共同購入・個配」の併用をどうおすすめするかがカギになるという。この日、小井さんが回った上飯田地区も近くにみやぎ生協・沖野店があり、「うちは沖野店行くから必要ないよ」と利用を断られるケースが何軒かあった。

「店が近くにあるので皆さん生協の商品をある程度知っているんですよ。ほくらの場合、地元で拡大やるときは、生協の商品の話から入るのですが、ここでは商品の話から共同購入や個配の魅力に、どう広げていくかが大切だと思っています。大阪いずみ市民生協の組織率は約3割ですが、みやぎは約7割。ここでは、生協の名前を出しただけでドアを開けてくれる人がいる一方で、生協のことを知っているのに、逆にあまり興味を持ってもらえないということも感じています」と、組織率の違いを実感として感じた小井さんは話してくれた。

(文・写真 早坂恵美)

### 仲間づくり支援活動・現地レポート③

#### コープふくしま・いわき支部

(支援生協：コープいしかわ・コープおきなわ)

## 避難指示区域内には600人弱の組合員 「仲間づくり」でその穴を埋める

7月15日に取材したコープふくしま・いわき支部(いわき市泉町)付近は、3月11日の震災で震度6弱を記録。津波によって事務所の

そばを流れる河川には海水が逆流。その水位は60cmほど上昇したが、幸い、あふれて被害をもたらすことはなかったという。しかし、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、配達エリアの一部が避難指示区域に設定された地域の中に入ってしまった。

「避難指示区域内には600人弱の組合員さんがいました。以前と同規模の事業を展開していくためにも、仲間づくり活動は最重要課題となっています」と、いわき支部長の森 重人さんは話す。今回、いわき支部にはコープいしかわとコープおきなわからそれぞれ2人が支援に入り、それぞれ2週間～1カ月にわたって現地に滞在し、仲間づくり活動に当たっていた。

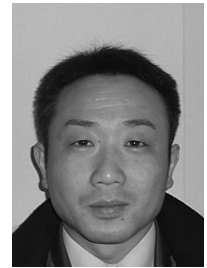
朝9時、森支部長と同支部・仲間づくりリーダーの<sup>たかはしあきのり</sup>高橋昭典さん、コープいしかわの<sup>みなみけいじ</sup>南恵治さんと<sup>たけうちしんご</sup>竹内伸悟さん、コープおきなわの<sup>こうちしんしゅう</sup>幸地伸修さん（同・<sup>うらさきやすし</sup>浦崎康志さんはこのとき不在）の計5人は、この日の注意事項や加入件数などを共有するためのミーティングを実施。それを終えると、各自はさっそく担当エリアに向かう準備に入った。その際に、この間のご苦労についてコープいしかわの竹内さんにお聞きすると、

「手続き方法など、自分たちの生協との違いを把握するのに最初は少し手間取りましたが、もう慣れました」と話してくれた。現地で仲間づくり活動を始めて10日あまりたったこともあり、担当エリアについては皆さんだいたい土地勘がついてきているようだ。また、コープおきなわの幸地さんは、

「今回の震災で食の安全性について考え直したいと思っているという方と、計2時間にわたってお話しさせていただき、加入していただいたこともありました」と話してくれた。



コープふくしま  
いわき支部長  
森 重人さん



コープいしかわ  
竹内伸悟さん



コープおきなわ  
幸地伸修さん



ミーティングの様子。



コープおきなわ  
浦崎康志さん

## 丁寧な説明を心掛け、この日3件の加入

### ～コープいしかわの南さん

コープいしかわの南恵治さんの自動車に同乗し、いわき支部の最寄りの駅であるJR常磐線泉駅周辺での仲間づくり取材させていただいた。この日は、前日までの訪問で資料をお渡しして、返事をうかがうことになっている方とのアポイントが数件、その合間に地図を見ながらご家庭を訪問していくというスケジュールだ。

最初に訪れたのは、小さな子どもが2人いる家。すると、さっそくご加入いただけることになった。加入後の段取りについて、不明点を整理し、しっかり尋ねる様子からは、生協の宅配に対する期待心も感じられた。特に、食品の安全性については、冷静さを保ちながらも今後の状況に対応できるよう、注意を払おうとされていたようだ。

海が近いこともあり、比較的涼しい地域だといういわき市だが、それでも夏の日差しは強く、暑い。仲間づくりは基本的に自動車で移動するが、担当エリア内で戸別訪問する際は徒歩となる。南さんは、汗を拭きながら一軒一軒お声掛けしていく。また路上では、以前訪問した家族と出会い、あいさつを交わすこともあった。

「私の説明が、(その人にとって生協についての)最初で最後の説明になることもあります」と、南さん。一期一会となれば、それがコープふくしまの印象を決定づけることにもなる。そのことを意識し、丁寧な説明を行なっている姿が印象的だった。

さらに午後に訪問し即決された方が1人。夕方には、前日伺っていた方がもう1人加入。どちらも幼いお子さんがいるご家族がご加



仲間づくり支援中のコープいしかわ・南 恵治さん。



入し、この日、南さんは3件のご加入を得た。これは支援活動開始以来、最も多い件数だという。

支部に戻ったのは19時を過ぎた頃。それでも支援に参加した4人のうち、作業を終えていたのは2人。残りの2人はアポイントをいただいたのが遅めの時間だったため、一度支部に戻った後、再度ご加入検討者の方の自宅へと向かったという。まさに支援者たちは、フル回転で仲間づくり支援に当たっていた。

## 各生協の担当者から学ぶチャンス

### ～いわき支部長の森さん

森支部長が、今意識しているのは、「放射線とも、風評被害とも『向き合う』『逃げない』ということ」だという。つまり、放射能被害を楽観も悲観もせず、正しく知り、正しい対応をするという姿勢を持つこと。そのために、6月から組合員と職員で、放射能に関する学習会なども行なっているという。また、今回の仲間づくり支援については、

「来てくださった方から多くのことを学ぶチャンスであり、それは被災した各県、各生協の今後の復興にとっても、とても大きな財産になると思っています。また、コープいしかわ、コープおきなわの職員に加入の手続きをしてもらえた組合員さんにとっても、良い思い出になるものと考えています。貴重な人材を派遣していただいた感謝の気持ちを忘れる事なく、1日でも早く恩返しができるように支部の舵取りをしていきたいと思います」と話してくれた。

なお、いわき支部での仲間づくりの目標は、1人1日1件。高い目標にもかかわらず、この日まで順調なペースで進んでいるという。(写真 p.19 コープいしかわ竹内氏、コープおきなわ浦崎氏を除き、秋山健一郎)

#### 仲間づくり支援活動・現地レポート④

### パルシステム福島・郡山拡大事務所 (支援生協：パルシステムグループ)

## 住民の入れ替わりが激しい地域を 4人1組で営業（仲間づくり）に臨む

7月4日から29日までの1カ月にわたり、パルシステム福島の営業（仲間づくり）支援が、パルシステムグループ（生協・関連会社）

10団体と新潟総合生協の共同で行なわれた。支援者が入った郡山センターの事業エリアは震災後の事業再開も早かったが、ここにきて原発事故による県外避難される人や、逆に津波被害を受けた沿岸部からの避難者など、住民の入れ替わりが激しいという。そのため、配送担当者が1コース回ると、場合によっては5人近くから「避難するので宅配を休止したい」という声を掛けられることもあるそうだ。

営業支援は1週間サイクルで、それぞれ22人～25人ほどのメンバーが参加して行なわれた。メンバーたちは日曜日に郡山拡大事務所に入り、地域状況の説明や引き継ぎを行ない、翌月曜日から金曜日までパルシステム福島<sup>こおりやま</sup>の営業担当（メイトさん）11人と混成で4人1組のグループをつくり、営業活動に取り組んだ。

29日、支援活動最終日に取材に伺うと、朝礼では支援メンバーとパルシステム福島のメイトさんがそれぞれ設けた週内の目標が、昨日で達成されたことが報告され、大きな拍手が起こっていた。外はあいにくの大雨だったが、人でいっぱい<sup>すずき</sup>の事務所には明るい声が響いていた。

## チーム内で互いを高め合いながら活動する

～パルシステム福島の田母神さん、  
パルシステム連合会の鈴木さん

今回の取材では、パルシステム福島・郡山センター、メイトの田母神悦子さんと、パルシステム連合会・商品管理本部の鈴木章文さんが所属する「Fチーム」の営業車に同乗させてもらった。週の終わりということもあり、予定していた主要エリアをほぼ回り終えていたため、効率的に辺縁部を回ろうと、この日グループは二手に分かれ、2台の営業車で移動。出発前には円陣を組み、テンションを上げた。

移動中、お2人から話を聞いた。田母神さんは、

「毎週人が入れ替わるといし、人数も多いと聞いていたので最初はちょっとドキドキしていましたが、でも、明るく楽しい人が多くて、本当に毎日楽しかったです。明日からいなくなってしまうのがさびしいなあって。来てくださったキャリアのある方の、仕事に取り組む姿勢やアドバイスは本当にありがたかったです。朝礼見たら分かると思いますけれど、明るいんですよ。あのテンションに引張られて、いつもなら『ここは難しいかな』と思うような場面でも、『もう少し頑張って説明してみよう』という気持ちになります。行き帰りの車内も研修みたいでした。誰かが『こういう説明が



パルシステム福島  
郡山センター メイト  
田母神悦子さん



パルシステム連合会  
商品管理本部  
鈴木章文さん

うまくできない』と言えば、『じゃあ、ロールプレイングしてみようか』なんて声が上がって、みんなで練習する。今回アドバイスしていただいたことを、今後に生かしたいですね」と話す。

パルシステム連合会の鈴木さんは、いつもは商品管理など業務に携わっているという。今回の支援は全員が現役の営業担当というわけではなく、鈴木さんのような人も多くいる。そうした人でも支援に当たることができるよう、着任時にガイダンスが行なわれているそうだ。

「営業は、社会人になって間もない頃に配送しながら多少やったことがありましたが、それを思い出しながらやる感じでした。田母神さんが優しく教えてくださるので、僕はそれに助けてもらいました。また、福島の方は優しい。断りを入れるときにでも、優しく断ってくれる（笑）。それでも、集合住宅などを回っていると空き部屋であることが多くて、そんなときは震災の影響を直に感じました」（鈴木さん）



気持ちを高めて出発するFチーム

## 支援メンバーの日報より

鈴木さん同様、地震の影響を直に感じたメンバーは多いという。メンバーの日報からは、震災の傷跡や放射能被害に対する県内のかたがたの思いや、そのような人びとに接することへの感想が数多く見られた。例えば、

- 「会う方、会う方に放射能の質問をされました」
  - 「福島の野菜は嫌だという方も多かったです」
  - 「外で遊んでいる子どもを見かけないような気がします。寂しい気持ちになりました」
  - 「公園はどこも草ボウボウ。放射線の影響で草も刈れないとのこと、大変そうでした」
  - 「ごはんを食べたところに笹飾りがあり、子どもたちのメッセージ『放射能がなくなるように』『早くもとの福島に戻りますように』『福島の子どもたちがずっと笑顔でいれますように』…私たちががんばらねば！」
  - 「今は外国産のお肉が安心かしらと国産を不安がっているおばあちゃんがありました」
  - 「郡山に避難をして1週間前に定食屋を再開できたと言っていた方の笑顔でうれしくなれた」
- などなど。また同時に、同じチームメンバーへの感謝の言葉を書いている人も多くおり、チーム一丸となって営業活動に取り組んでいたことが伝わってきた。

## 協同した経験を、ぜひ今後に生かしてほしい

### ～パルシステム福島の勝倉さん、 パルシステム連合会の武田さん

パルシステム福島・郡山拡大事務所、所長の勝倉<sup>かつくら やすのり</sup>靖典さんは、今回の支援活動について、

「これだけの規模の外部のかたがたと一緒に営業に取り組んだのは初めてです。これまで私たちの事務所では研修機会が十分とはいええず、入れ替わったスタッフの中には、研修を受けていない者もいました。そのような状況もあり、今回の支援はスタッフがスキルアップを遂げるきっかけになりました。いつもは月の終わりで達成する目標が、今月はいち早く達成しましたからね」と話す。

また、支援活動全体を管理するパルシステム連合会・営業部営業支援課長の武田<sup>たけだ のぶひこ</sup>信彦さんは、

「今回はパルシステムグループ9団体が共同で活動するという、あまり例のない取り組みでした。この規模でつながりが持てたのは良かったと思います。今回は延べ92人が参加していますが、日頃から営業に携わっている者もいれば、そうではない者もいます。そこで、『とにかく皆が一丸となってパルシステム福島の力になることを目標に置くべきで、自分だけが結果を出せばいいという姿勢では支援は成功しない』と言ってきました。今回、1カ月で458件（支援者計）の加入をいただき、その上、福島の担当者との交流も広がったので、大成功とっていいと思います。今回、若い世代の職員も数多く参加しています。この皆さんには、ぜひ協同の経験を忘れずにいただき、また手を取り合うべき時に生かしてもらえればと思います」と話してくれた。

(写真 秋山 健一郎)



パルシステム福島  
郡山拡大事務所 所長  
勝倉靖典さん



パルシステム連合会  
営業部営業支援課  
課長  
武田信彦さん